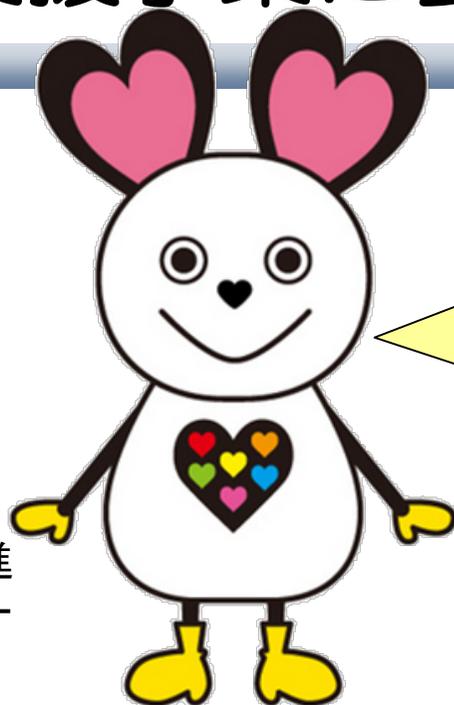


精神障害にも対応した地域包括 ケアシステムの構築に向けて ～構築支援事業に参加して～



とちまるくん

とちぎナイスハート推進
マスコットキャラクター
「ナイチュウ」



障害があってもなくても、手を
とりあって、共に生きる

「ナイチュウ」は、そんな社会
の実現をめざして
がんばる人たちを応援してい
るよ！

とちぎナイスハート推進マス
コットキャラクターとして、元
気いっぱい活躍チュウ！

栃木県保健福祉部障害福祉課

○ 構築支援事業に参画したきっかけと経緯①

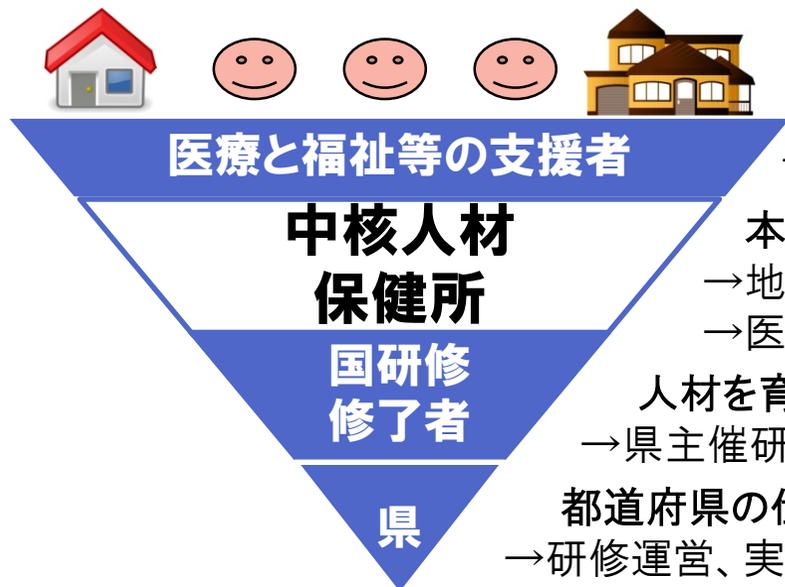
平成25年度
「地域に迎え入れる力」の強化

平成26年度
「病院から送り出す力」の強化

保健所保健師
医療と福祉のつなぎ役

平成27年度～「医療と福祉等の連携」強化

各機関が役割を発揮・強化するとともに、医療と福祉等の多職種チームで取組を各地域で継続・促進し、精神障害者が望む地域生活を支援



本人中心のチーム支援ができる人
→精神障害者が希望する地域生活を支援

本人中心の保健医療・福祉サービスの連携が図れる人
→地域課題の解消のため関係者を巻き込み、事業展開
→医療と福祉のつなぎ、実行計画の進捗管理、取組継続の支援

人材を育成できる指導者 → 地域密着AD
→県主催研修の企画・講師 → 地域移行WGメンバー

都道府県の仕組みづくり
→研修運営、実行計画の発表&作成・情報交換の場
自立支援協議会相談支援部会の下に地域移行WGを設置(H27～)

○ 構築支援事業に参画してよかったこと

広域アドバイザーの助言

- 地域移行の実践経験を有する者のアドバイスは説得力が高く、関係者の意識高揚が図れた。
- 現地支援における適切なアドバイスにより課題が明確になるとともに、支援策の具体的な検討に繋がった。

都道府県密着アドバイザーとの連携

地域移行WGや業務担当者会議における情報・意見交換を行い、研修を企画し、各圏域において、取りくむべき方向性を示すことができた。

保健・医療・福祉関係者の協議の場

各障害福祉圏域（中核市県域を除く。）において、保健所を中心とした関係機関の協議の場を設け、精神障害の地域移行を推進する取組を実施している。

○ 構築支援事業における取組内容（県全体）

1 地域移行・地域定着に関わる人材の養成

- ・各機関・職種が求められる役割を理解し実行する →①
- ・特退院後生活環境相談員と相談支援専門員の資質向上 →②③

2 医療と福祉の連携による支援ネットワークの構築

- ・地域単位で継続して応援する仕組みを確立する →①②③+④

3 相談支援体制の構築

- ・基幹相談支援センター設置を柱とした市町の相談支援体制の充実・強化 →①②③+④+⑤等

事業名		対象	H25	H26	H27	H28	H29
①	精神障害者地域移行・地域定着支援関係者研修 医療と福祉の連携を推進する中核的人材の育成	医療と福祉の中核的支援者を健康福祉センターが推薦、圏域チームで参加	→	→	→		
②	改正精神保健福祉法に関する業務従事者研修	精神科病院の退院後生活環境相談員等が4名1組で参加		→	→		
③	相談支援従事者専門コース別研修 (精神障害者)地域移行・地域定着支援	相談支援専門員	→				→
④	広域健康福祉センター主催事業(H24から) ※①の地域展開 ・地域移行支援協議会の運営、研修 ・ピアサポーター活用	病院、相談支援事業所、市町等 ピアサポーター	→	→	→	→	→
⑤	市町相談支援体制充実強化研修、 相談支援協働コーディネーターによる助言・指導等	市町職員・相談支援事業所等		→	→	→	→

○ 構築支援事業における取組内容（県北障害保健福祉圏域）

H24年度～「病院が送り出す力の強化」「地域が迎え入れる力の強化」
 H27年度 「地域移行支援の実績を5件積む」
 H28年度 「病院は病院全体に地域相談の取組が広まるように、委託相談支援事業所は一般相談支援事業所に地域相談の仕組みを指導助言できるように、行政は病院と地域との橋渡しになれるよう取組を進める」

事業内容	時期	H28年度 行動計画	結果	H29年度 行動計画
情報交換会	6月 12月	H27年度抽出の7事例について、病院・事業所・行政がチームを組み退院支援を実施。 情報交換会において支援の進捗状況を確認し、工夫や課題を共有。	H28年9月をもって7事例すべてが退院。 地域相談に初めて取り組む事業所が制度活用等について助言を得たり、各機関が退院支援のアイデアを共有する機会となった。	「事例から学ぶ」「実践を積む」 ⇒新たに退院支援事例を抽出し、退院支援の経過を情報交換会にて把握する。
検討会	7月 3月	県北地区の地域課題を踏まえた地域移行支援のあり方、退院支援の方向性の検討	病院（看護、MSW）、相談支援事業所（一般、委託）、行政（保健師、事務担当者）が地域課題をふまえて方向性を検討。 「事例から学ぶ」「実践を積む」「ピアサポートについて知り、支える」活動の必要性について意見が出された。	「ピアサポートについて知り、支える」 ⇒ピアの視点を取り入れた試みを、引き続き導入していく。
ピアサポートの視点から	10月	当事者の体験から支援者が学ぶ機会づくり	長期入院を経て退院し就労生活を送る当事者に協力を得て、体験談のインタビューと自宅訪問を実施。	「地域資源の理解と相互交流」 ⇒障害福祉サービス事業所見学（大田原市）を実施する。
研修	9月	退院支援に必要な地域資源の理解（障害福祉サービス事業所見学）	那須町内の3事業所（入所、就労支援）、1病院を見学。 併せて、病院で医師らと地域相談従事者との情報交換を実施。	「地域包括ケアシステムの構築」 ⇒市町の自立支援協議会相談支援部会における課題の共有、国の施策提言を意識した事業展開と評価の機会づくり
連絡会	2月	地域相談や退院支援に関する広域的な情報交換の機会の確保	地域包括ケアシステム、精神保健福祉法改正、障害者差別解消法に基づく意思決定支援等をテーマとした話題提供と情報交換。	

安足地区精神障害者地域生活支援ネットワーク会議 ～保健・医療・福祉による協議の場～

市自立支援協議会
との連携？

啓発委員会

- ・精神科医療や障害への理解促進、啓発
- ・住民のこころの健康の保持増進を図る
- ＜検討会議＞
- ＜こころの健康講座＞
ピアサポーターからの発信、事業所紹介
- ＜若年層向け自殺対策強化事業研修会＞

- ・関係機関の連携強化
- ・安心して生活できる地域づくり

地域移行・地域交流委員会

精神障害者が地域で生活を続けられるための支援と地域生活移行に向けた支援を推進するために連携強化を図る

地域移行・退院促進部会

＜検討会議＞（企画・実施）

- ・退院支援プログラムの検討
- ・経験値の共有＝人材育成（成功事例をとおして）
- ・ピアサポートの活用推進（活動支援及び理解促進）

地域包括ケアシステム構築の検討

交流部会

⇒ 当事者及び関係機関の連携強化を図る
＜検討会議＞ ＜ボーリング大会＞ ＜ソフトバレーボール大会＞

相談支援
事業所

医療機関

市

検討会議
＝エンジン部分

ピア
サポ

安足C

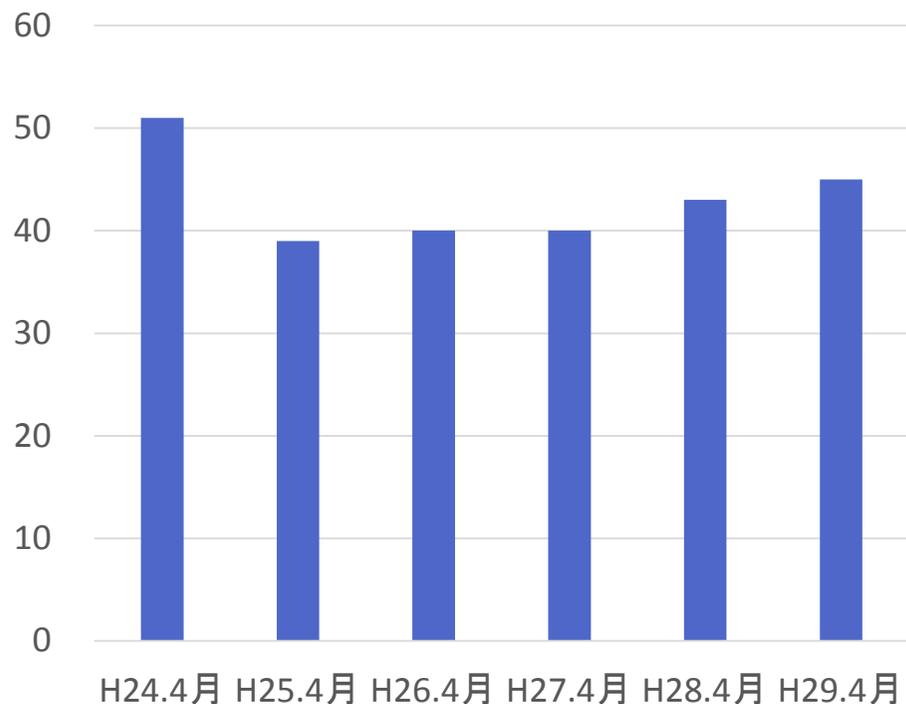
○ 構築支援事業に参画して見えてきた課題①

○ 地域移行支援の担い手不足

指定特定・指定障害児相談支援事業所が176か所であるのに対し、一般相談支援事業所の指定数は45か所(約25%)に留まる。

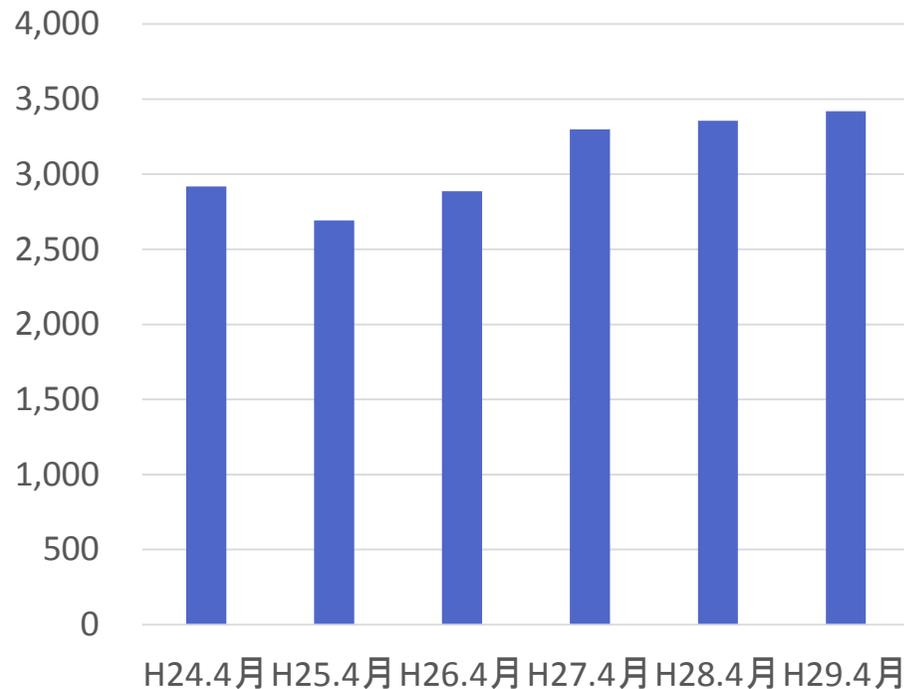
栃木県

指定一般相談支援事業所数



全国

指定一般相談支援事業所数



○ 構築支援事業に参画して見えてきた課題②

○市町村担当の意識変革が必要

退院支援は、病院の役割と考えている市町村がある。

→5自治体が、地域移行支援・地域定着支援のどちらも支給決定実績がなし。

○精神保健福祉法から総合支援法への丁寧な引継ぎが必要

医療から福祉に分野が変わるため、保健所の役割が重要であり、入退院届や630調査、さらに日々の精神科病院とのやりとりから、地域移行対象者数の把握や障害福祉サービス事業所への引継ぎ等が求められる。

医療		福祉
精神保健福祉法	→	総合支援法
県(保健所)	→	市町村
病院	→	障害福祉サービス事業所